

令和8年度 多賀地区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】令和 8 年 8 月 25 日(火)19:00～20:30

【場 所】多賀公民館

【参加者】地域： 9人(連合自治会長ほか)、傍聴：2人

市：市長、教育委員会事務局長、市民生活部長、多賀公民館長(司会)

【テーマ】(1)壬生川駅を拠点とした地域の活性化、街づくりについて

- ①デマンドタクシーの有効活用について
- ②「ふりむけば壬生川」等のイベントについて
- ③喜左衛門狸の伝承について
- ④若者のUターンについて

(2)フリートーク

- ①防犯灯設置の補助について
- ②国道 196 号との交差点部について
- ③喜左衛門狸の資料整理について
- ④企業誘致について
- ⑤シニアクラブの担い手確保について
- ⑥中学校部活動の地域移行について
- ⑦喜左衛門狸の PR について
- ⑧パートナーシップ協定を結んだその先
- ⑨民生委員の担い手確保・市との協力について

R8.8.25 当日の発言内容

■参加者

- ・多賀校区は人口約 5,300 人、世帯数約 2,800 世帯であり、生活圏内にスーパーマーケットやドラッグストア、病院などが集積しているほか、特急列車が停車する壬生川駅、高速道路のインターチェンジなどもあり、生活しやすい地域である。
- ・多賀小学校は児童数が 249 人と校区内でも比較的多く、近年 15 年間で 60～70 軒程度の住宅が建設され、若い世代の転入も見られる。
- ・地域と小学校が一体となった運動会や伝統行事、スポーツ大会なども盛んで、地域のまとまりが強い。
- ・市長・部長の皆さまとも、ぜひお話ししたい内容について、本日はお時間をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●市長

- ・市長就任後、各地域を回りながら、単なる説明会や報告会で終わるのではなく、次の世代にどのような地域を残していくのか、どのような市を残していくのかというのを、市・地域・住民がともに考えることが重要と考えている。

- ・地域づくりは、行政がすべてを担うものでも、住民だけが担うものでもなく、行政と地域が本当の意味で協働することが重要である。
- ・交通面では、今治小松自動車道や市道北条新田高松線が今年度開通していく予定であるほか、小松バイパスの延伸についても国・県等に要望している。
- ・東西方向についても、氷見壬生川線、さらに西条・新居浜方面を結ぶ道路網は、通勤や産業の面から重要であると考えている。
- ・壬生川駅については、多賀地域にとって重要な交通拠点であり、JR 四国の利用状況や経営状況も踏まえながら、今後の駅のあり方について JR 四国と話をしていく必要がある。
- ・こうした状況を踏まえ、20 年、30 年後に子どもや孫の世代へより良い多賀地域を残すため、今の世代が何をすべきかを地域の皆さんとともに考えていきたい。

ふるさと納税を活用した地域活動への支援について

- ・多賀地域は「多賀を守り育てる会」とパートナーシップ協定を締結しているため、ふるさと納税を活用して地域活動を支援することができる。
- ・多賀地域出身者が、パートナーシップ協定を締結している団体を指定して 1 万円をふるさと納税した場合、税額控除を受けられるほか、寄附額の 85%に当たる 8,500 円が団体の活動資金として交付される。
- ・例えば、小学校の周年事業などで卒業生や地域出身者から寄附を募る際にも、この制度を活用できる可能性がある。
- ・多賀地域出身者の中には、現在は地域外に住んでいても、親や祖父母が地域に住んでいたり、実家や土地を所有していたりする人もいると考えられる。
- ・そうした地域出身者に、ふるさと納税を通じて地域を応援してもらうことで、空き家の管理などを含め、地域のさまざまな課題や活動の財源として活用できる可能性がある。
- ・この制度はまだ十分に知られていないため、市としても担当部署から地域へ説明を行いながら、多賀地域の未来を考えるための財源として、ぜひ活用を検討してほしい。

(1) 壬生川駅を拠点とした地域の活性化、街づくりについて

■参加者

- ・壬生川駅については、現在も特急列車が停車しているものの、利用者が少ない状況にあり、将来的に特急通過駅となることを懸念している。
- ・JR 四国は、人口減少や自動車利用の増加、コロナ禍などにより厳しい経営環境にあり、国からも鉄道事業者と沿線自治体が連携して鉄道利用や地域交通の維持について検討するよう求められている。
- ・こうした状況を踏まえ、壬生川駅を今後も特急停車駅として維持するため、駅の利用者を増やす取組について行政の考えを伺いたい。

●市長

- ・壬生川地域には日新製鋼やフジボウ愛媛などの企業が立地しており、特にフジボウ愛媛は、半導体ウエハ

一の研磨材を製造する研究開発機能を備えた「マザー工場」で、今後も設備投資が期待される。

- ・企業の従業員や転勤者が地域に住み続けてもらうためには、働く場所だけでなく、住まい・教育・医療・子育て環境などを総合的に整えることが重要。特に、転勤者や子育て世代の女性が地域に馴染めるよう、自治会などの受入れ体制も大切になる。

- ・こうした取組によって、多賀地域に新たな住宅や家族を増やし、人口減少を抑え、住み続ける人を増やしていくことが重要。

- ・人口が維持され、地域に住む人が増えれば、壬生川駅の利用者も増え、地域にとって重要な駅であることにもつながる。

- ・また、企業の研究開発や設備メンテナンスなどで地域外から出張者が訪れる機会もあるため、ホテルなどの宿泊環境を含めた受入れ環境の整備も必要。

■参加者

- ・壬生川駅の利用促進について、特に問題となっているのが駅周辺の駐車場不足である。

- ・特急列車を利用しようとしても、駅周辺の駐車場が満車になっていることが多く、利用したくても利用できない場合がある。(JR 四国のパーク＆ライドは8台しかない)

- ・食の創造館などの駐車場を開放することはできないか。

●市長

- ・壬生川駅周辺の駐車場について、現在どのような利用状況になっているのか、市として十分に把握できていないので、JR 四国に駐車場の利用状況等を確認する。

①デマンドタクシーの有効活用について

■参加者

- ・現在運行しているデマンド型交通について、壬生川駅を拠点としたデマンド交通の導入・活用について、改めて検討できないか。

●市長

- ・現在、多賀地域では「よりそいタクシー」を週2回、1日4便運行しているが、まずは現在ある交通手段を十分に活用し、利用率を高めることが重要。

- ・例えば、高齢者が地域で「毎週〇曜日に一緒に買い物へ行く」といった形で複数人がまとまり、乗り合いで利用することで、より効率的な運行につなげられる。

- ・一人ひとりが個別に利用するのではなく、地域で利用する日や目的地を合わせるなど、乗り合いを促す仕組みを地域と一緒に考えていきたい。

- ・まずは利用率を高め、運行の効率化を図ることが先であり、利用が増えて「もっと便数が必要」という状況になれば、将来的な便数の増加や新たなデマンド交通のあり方について検討していきたい。

②「ふりむけば壬生川」等のイベントについて

■参加者

- ・壬生川駅の利用促進についてですが、地域は何もせずに JR への要望っていうのもおかしい話で、地域としても、「ふりむけば壬生川」などのイベントを継続して開催している。
- ・地域の賑わいを取り戻すことを目的に、2019 年から駅周辺でイベントを開催しており、現在では 70 店舗程度が出店する規模となっている。
- ・単にキッチンカーを集めるイベントではなく、駅を拠点としたまちづくりや地域活性化を目的として取り組んでいる。
- ・今後は 100 店舗程度の規模に拡大するとともに、将来的には壬生川駅周辺を通行止めにして、昔のような歩行者天国や朝市を開催することも目指している。
- ・駅を単なる交通施設としてではなく、地域の交流や賑わいを生み出す拠点として活用していきたい。

●市長

- ・「ふりむけば壬生川」は非常に素晴らしい取組である。
- ・長尾氏は地域おこし協力隊の第一号として、「食を通じて人と人をつなぐ」「地域を楽しむ」ことをされている。
- ・周桑地域には果物や農作物などの豊かな食資源があるため、食を大切に、地域資源として有効活用していくことが重要である。
- ・「ふりむけば壬生川」においても、「食」を一つのキーワードとして取り組んでいくことが期待される。
- ・今後、若者がさらに地域に関わることで、人が人を呼ぶ流れが生まれる。若者が活躍している姿を地域全体でつくり、発信していくことが重要である。

■参加者

- ・先日の夏祭り・盆踊りの後、婦人会の参加者約 10 名で、JR 駅の活性化や地域の賑わいづくりについて意見交換を行った。
- ・70～80 代の参加者からは、かつての東予朝市の賑わいを懐かしむ声があった。
- ・現在、若者が「ふりむけば壬生川」などの活動に取り組んでいることを評価しつつ、地域への外出や交流の機会をさらに増やしてほしいとの意見があった。
- ・今後開催される酒蔵マルシェなどのイベントについても、飲酒を伴うことから、電車など公共交通機関の利用促進や JR 壬生川駅の活性化につながることを期待される。
- ・かつてのような毎週日曜日の歩行者天国の実施は難しいとしても、レーモンド松屋氏の出演などで賑わっていた当時の雰囲気を取り戻してほしいとの声があった。

●市長

- ・地域が駅の利用促進に向けて、実際にイベントなどの取組を進めていることは大変ありがたい。
- ・道路についても、単に車が通る場所としてではなく、イベントなどを開催するための空間として活用するという考え方が重要。
- ・松山市駅周辺でも道路空間を活用した取組が進んでおり、壬生川駅周辺でも、地域の理解を得ながら、道

路を活用した賑わいづくりを検討していきたい。

■参加者

- ・昔の壬生川駅周辺では、朝市や歩行者天国などが開催され、多くの人で賑わっていた。
- ・現在は駅前の区画整理が行われ、きれいに整備されているものの、その後十分に活用されていない。
- ・過去の駅前の賑わいを知る世代からも、昔のような賑わいを取り戻してほしいという声がある。
- ・一方で、イベントの準備や片付け、清掃などの負担が地域に集中していた。現在は当時のような若い担い手も少なくなっているため、負担が集中するようなことは避けたい。
- ・イベントを地域だけに任せるのではなく、行政や企業、学生なども一緒になって取り組む必要がある。
- ・特急については、学生の通学利用もあり、特急が停車しなくなれば学生が別の地域へ流れる可能性もある。
- ・お盆や正月には駅周辺が送迎車で混雑するなど、実際には一定の利用があることも JR 四国に伝えてほしい。

③喜左衛門狸の伝承について

■参加者

- ・前回の「ふりむけば壬生川」開催時に、喜左衛門狸のはりぼてを持ってきて、ちょっとしたイベントを行った。
- ・地域の伝統文化である「きざえもん狸」についても、松山大学の学生や「多賀を守り育てる会」と連携しながら PR を行っている。
- ・多賀小学校でも「喜左衛門参上」を踊っている。レーモンド松屋さんも来られている。
(→フリートークにおいても、話題に上がります)

④若者の U ターンについて

■参加者

- ・移住者の受入れも重要であるが、進学を機に大阪や東京などへ転出した地元出身者に戻ってきてもらい、地元で就職・定着してもらうことも重要である。
- ・移住者への支援を行っても定着せず転出するケースもあるため、地域とのつながりがある若者の U ターンを促進することが、定着につながるのではないかな。

●市長

- ・女性の流出が多い背景には、女性が働ける場所が十分に知られていないことも要因として考えられる。
- ・市内 5 高校の校長と意見交換を行っており、高校生向けの合同就職面接会についても話をしている。
- ・現状では合同就職面接会の案内が就職希望者を中心としており、進学希望者には十分届いていない。
- ・市内にはさまざまな企業があるため、進学希望者も含め、高校生に市内企業や仕事の選択肢を知ってもらう機会を増やしていく必要がある。
- ・先日の「高校生との未来会議」でも、「市内にこんな会社があることを知らなかった」という声があった。
- ・中学生・高校生の段階から、市内にどのような企業や仕事があるのか、農業を含めて地域の産業や働く場を知ってもらう地道な取組が重要である。

(2)フリーストーク

①防犯灯設置の補助について

■参加者

- ・防犯灯の設置補助金が 3～4 年前に廃止され、現在は新設する場合、自治会が費用を負担している。
- ・近年は闇バイトなど犯罪の形態も変化しており、地域の防犯対策の重要性が高まっている。
- ・自治会加入率が約 55%である中、防犯灯の設置・維持管理を自治会だけで負担することには限界がある。
- ・LED 防犯灯についても、寿命を迎えれば本体交換が必要となり、自治会の負担が続くことになる。
- ・地域全体の防犯を考えた場合、防犯灯だけでなく防犯カメラなども含め、行政による支援のあり方を改めて見直してほしい。

●市長

- ・防犯灯については、他の地域からも同様の意見が寄せられている。
- ・地域の防犯を自治会だけに負担してもらうことが適切なのか、制度について改めて検討していきたい。
- ・時間を頂きたい。

②国道 196 号との交差点部について

■参加者

- ・住友共電付近から国道 196 号へ接続する道路整備を進めており、来年 3 月初旬の供用開始を予定している。接続部には信号機・横断歩道を設置する。
- ・これまで公民館や多賀小学校方面への抜け道利用による速度超過等の危険があったため、抜け道として利用しにくい交差点形状への変更を調整している。
- ・8 月 2 日には、市・国土交通省・警察による現地確認も行われ、地域の安全確保に向けて迅速に対応いただいていることに感謝している。

③喜左衛門狸の資料整理について

■参加者

- ・「喜左衛門狸」などについて、昭和以前からの歴史資料や伝統行事に関する資料が数多く残されている。
- ・これらの資料が膨大。地域住民だけでは整理や研究が難しいため、市の学芸員など専門的な知識を持つ人に協力してほしい。
- ・過去には合田氏が調査していた。
- ・予算を求めているのではなく、地域の歴史や文化を正しく整理・研究するための専門的な人材の協力をお願いしたい。

●教育委員会事務局長

- ・学芸員はそれぞれ専門分野があるため、すべての資料整理に対応できるとは限らない。
- ・まずは、資料が残されているのかを確認したい。

・現在郷土館に保管されている資料について、郷土館の職員もしくは社会教育課の職員にも情報を共有し、資料の確認・整理について進めていく。

④企業誘致について

■参加者

地元企業の誘致について、何か進展はあるか？

●市長

・県と連携し、東京での企業誘致活動も進めているほか、用途地域の変更など、企業立地に向けた環境整備も進めている。

・丹原地域では冷凍工場の整備、今治道前線周辺では野菜のカット・冷凍加工工場の立地が進んでいる。

・また、国が造船業を後押しする中、浅川造船や今治造船、住友重機などでも設備投資が進められている。

・半導体関連のフジボウ愛媛なども含め、国の政策と連動した企業の設備投資や立地も進んでいる。

・企業誘致は鋭意進めている。

⑤シニアクラブの担い手確保について

■参加者

・シニアクラブの会員数が年々減少しており、新しい会員がなかなか入ってこない。

・60 歳代など比較的若い世代にも参加してもらえるよう、市からも呼びかけを行ってほしい。

・活動を継続していくため、補助金についても今後検討してほしい。

⑥中学校部活動の地域移行について

■参加者

・中学校の部活動について、学校単位でチームをつくるのが難しくなっており、今後は複数校合同や地域での活動に移行していくのではないかと。

・地域には競技経験のある指導者もいるが、活動場所や子どもたちの移動手段などが課題となる。

・今後の部活動の地域移行について、市の考えを伺いたい。

●市長

・中学校単独でチームをつくるのが難しい状況になっており、スポーツを継続できる環境を整える必要がある。

・スポーツだけでなく文化部も含め、指導者、活動場所、移動手段などを含めて検討していく。

・今年度から、副市長をトップとして本格的な協議を開始している。

・子どもたちが継続してスポーツや文化活動に取り組める環境を整えるとともに、初心者でも新しい競技に挑戦できる仕組みをつくっていきたい。

⑦喜左衛門狸の PR について

■参加者

- ・松山大学の学生にもキャラクター制作などで協力してもらっており、現在の喜左衛門狸のキャラクターも十分魅力的であるため、活用しながら地域の PR につなげたい。
- ・鶴岡八幡神社は NHK でも紹介されるなど、歴史・知名度のある地域資源である。
- ・喜左衛門狸と鶴岡八幡神社を組み合わせで発信し、地域全体の賑わいにつなげていきたい。

⑧パートナーシップ協定を結んだその先

■参加者

- ・「多賀を守り育てる会」は令和6年から市とパートナーシップを結んでおり地域組織と市が両輪となって地域を盛り上げる取組としてスタートした。
- ・現在、吉岡・国安・小松・中川など、各地域でパートナーシップの動きが広がっている一方、市としての今後の方向性や最終的な目標が見えにくくなっている。
- ・各地域がそれぞれ活動するだけでなく、市として制度の目的やゴールを改めて明確にし、仕切り直してほしい。

⑨民生委員の担い手確保・市との協力について

■参加者

- ・民生委員のなり手が不足しており、担い手の確保が難しくなっている。
- ・高齢化に加え、75 歳まで活動しなければならないという負担感もあり、後継者確保が課題となっている。
- ・地域の中で、自治会等の区域(境界)や担当について判断が難しいケースもある。
- ・地域だけでは判断が難しい問題が発生した場合には、市の担当部署から助言や情報提供をしてほしい。

市長からのまとめ

- ・多賀地域は、地域の皆さんが非常に熱心に活動しており、地域としてのまとまりが強いことを感じた。
- ・一方で、現在地域を支えている世代が高齢化しており、10 年後、20 年後を見据えて、次の世代を育てていくことが重要。
- ・地域の祭りや行事についても、若い世代が「面白おかしく」主体的に参加してもらえるような形に持っていく必要があると考えており、次の世代に人を育て、繋げていく仕組みを地域と一緒に作っていきたい。

閉会あいさつ

- ・多賀地域としても、今後さまざまな面で市の力を借りながら、地域の活性化やまちづくりに取り組んでいきたい。